
自覚的実践法によるロシア語教育

——積極的コミュニケーションの方法について——

トルストグーゾフ アレキサンダー*

これまでロシア語教育は、おおむね二つの方法によって行われてきた。ひとつは文法という言語の形式を学習する方法であり、もうひとつは直接に（翻訳することなく）読み書き聴き話すことを学ぶ実践的な方法である。前者は主に言語システムの各側面を理解することを目的とし、日本では広く行われている方法である。後者はコミュニケーションのさまざまな局面に対応できる表現力（とくに会話の能力）を養成しようとするもので、ロシアでは60年代以降この方法が一般的となった¹⁾。

「自覚的実践法」は、名前から分かるように、自覚的なものである。教育の課程で学習者たちは言語を諸要素に分類・区分して認識し（ロシア語で「認識」と「自覚」はсознаниеと表現される同一の言葉である）、授業はコミュニケーション活動に必要な言語情報の提供で始まる。それと同時に、この方法は実践的なものでもある。異なる言語を実際に使えるようにすることが教育の最も重要な目的だからである。

自覚的実践法は、言語学の理論上、つぎのように基礎付けることができる。第1に、広い範囲にわたる言語の現象を3つの局面、すなわち、(1) 言語、(2) 言語能力、(3) 言語活動の能力、に分けて考察する。言語とは語彙と文法であり、言語能力とは直接にその言語を通じて考えを表現するコミュニケーションの過程であり、言語活動の能力とは具体的な形式（聞き取り方、話し方、読み方、書き方）を通じてこれを実現するコミュニケーションの過程である。第2に、消極的な文法に対する積極的な文法の存在である。消極的な文法は言語を構成する諸要素の機能と意味とを形式的な側面から研究するが、積極的な文法はこの形式の用法を研究するものである。

自覚的実践法をとおして、教育の二つの目的——実践的な目的と総合的な目的とが実現する。実践的な目的とは、コミュニケーション活動の手段としてロシア語を駆使することである。言いかえれば、これは学習者たちが（母国語への翻訳なしに）直接的にロシア語で言語活動（話し・聞き・読み・書き）できるようにすることである。教育の段階が異なれば、あるいは教育機関のタイプが異なれば、言語活動のどの局面を重視するかが異なるが、自覚的実践法の特徴は言語活動のさまざまな局面を総合的に組み合わせることにある。

1) Изаренков Д. И. Обучение диалогической речи. М., 1986, с.5.

ロシア語教育の全課程で実践的な目的を達成するためには、いくつかの課題を設けなければならない。(1) コミュニケーション的な課題：学習者がコミュニケーションのさまざまな局面における言語活動の諸要素を把握すること。(2) 語学的な課題：学習者が実際の使用のために必要なロシア語の体系的な知識を得ること。(3) 総合教育的な課題：学習者がロシアの歴史や文化・生活様式の知識を得ること。(4) 職業的な課題：学習者がロシア語をコミュニケーションの手段としてだけでなく、専門的活動の手段として把握すること²⁾。

総合的な教育の目的は、学習者たちが言語を社会現象として理解することにある。日本人の学習者たちにとって、ロシア語は形式上も内容上も異なる言語システムであるため、母国語とロシア語とが比較され、その言語文化の違いを知れば、ロシア語だけではなく母国語の表現レベルをも高めることになる。

自覚的実践法によるロシア語教育の内容としては(1) 言語知識の習得、(2) 教育課程をとおしてロシア語に慣れ・表現に熟練すること、などがある。言語知識は、以下のように、5つの要素で構成される。

(1) 音声。音声は言語にとって不可欠な存在で、この要素がなければ言語は成立しえない³⁾。

ロシア語の音声学的、イントネーション的な難しさを考慮すれば、発音の授業は独立した独自の分野として区分されなければならない。初等の段階では、音声の授業は発音の基礎を作り上げることが目的とする。発音の基礎を作り上げ修正するために音響器材を使用して聴音するのは、音声素材を自覚的に認識し模倣することによってこれが習得されるからである。より進んだ段階では、授業の目標は間違った発音の修正にあり、そのために音と語内リズムとイントネーションの指導が行われる。そのとき、学習者はすでに音声システムに慣れているため、注意が文の内容に払われ、意識しなくとも自由に発音できるようになる。だが、間違った発音の修正に注意を払わなければならないようであれば、そのために内容にまで注意を集中できず、自由に会話はできない⁴⁾。

(2) 文法。文法の導入は、コミュニケーションのテーマと実態に即して行われるか、あるいは教育課程で独自に行われる。言語素材を教える場合の主要なシステム的原則は、意味による言葉の分類(必要や希望などの表示)である。また、これとは別に文法的な言語素材の概念区分も必要である。文法を導入する際には、日本人にとって特に難しい形式に重点がおかれる。教程が進むにしたがって、導入される文法の領域も広がる。授業の内容は実践的な性格を持つため、文法教育は補助的なものであり、文法の導入には、翻訳を介さな

2) Капитонова Т. И., Щукин А. Н. Современные методы обучения русскому языку иностранцев. М., 1987, с. 58-68.

3) Акишина А. А. Барановская С. А. Русская фонетика. М., 1990, с. 5.

4) Лебедева Ю. Г. Звуки. Ударение. Интонация. М., 1986, с. 5.

い直接的な学習方法、動詞を中心にした学習方法、慣用句を中心にした学習方法、などが使用される。

話し言葉は、会話と独白（モノローグ）というかたちで現れる。教育課程での重点は主に会話にある。なぜなら、モノローグに使われる文例は、会話で習得されるからである⁵⁾。

(3) 語彙。語彙の学習の主な目的は、どのような分野でもコミュニケーションできるように語彙を増やし、また、外国語文を理解するためには非日用語の語彙を豊富にすることも必要である。語彙の選択は、テーマ別（特定の学習者たちのために関心のある話題の語彙を選ぶこと）または文法上の特性（その単語の品詞に応じて単語群内結合と造語関係を考慮すること）によって行われる。ロシア語教育を自覚的実践法の立場から行うには、語彙を翻訳せずに理解すること（語彙の解釈がロシア語じしんで行われること）が優先されねばならない。

(4) 音声言語（会話）の能力。教育の実践的な面は重視されるので言語能力が教育の主な課題として考察される。この能力を向上させるための素材は、コミュニケーションのテーマと文脈、それに関連する語彙と文法、テーマ別の模範例、地誌学的な情報を含む。

(5) 文学テキストの分析。教育課程のなかで、文学テキストは特に重視される。このテキストは学習者たちの外国語に対する関心を高め、ロシア語を母語とする人々の生活と文化を理解するための重要な情報源になり、学習者の想像的な活動を刺激し、言語文化のレベルを高める。テキストは、その全体の意味を理解するための読解と、細部を理解するための読解の課程を通じて、学習者の発言能力を向上させる。より進んだ段階では、主に読解は授業外で行われることを前提にし、授業のなかでは読書後の検討や文章の分析が中心になる。この分析によって、学習者は音声言語を駆使するだけでなく、文章の語彙とスタイルを把握する。文学作品の本文についての読解力を向上させるためには、テキストを読む前、テキストを読解中、テキスト読了後のそれぞれの段階で練習問題が使用される。テキストを読む前に行う練習問題は、授業中にこのテキストを読解するために必要な背景知識を習得し、読解能力を向上させることを目的とする。テキストを読みながら行う練習問題は、学習者が独自に読解に目標を与えるためのものである。テキスト読了後の練習問題は、教員の指導の下に、テキストの理解度と読解の能力とをチェックすることを目的とする⁶⁾。初等段階では主にダイジェスト版テキスト、進んだ段階では原文が用いられる。

ロシア語の教育課程における目的は、コミュニケーション活動の手段を習得させることと、音声言語を熟知させること、の2つである。歴史的にはこれらは2つの方法で行われてきた。その1つは、翻訳を介在させない音声言語（会話）の学習である。この場合、会話じたいが言

5) Остапенко В. И. Обучение русской грамматике иностранцев на начальном этапе. М., 1987, с.4.

6) Журавлева Л. С., Зиновьева М. Д. Обучение чтению. М., 1988, с.35-56.

語知識の源になる。もう1つの方法は、文法教育を会話教育の前提として行うものである。そのとき、文法的諸要素は、その後の会話の熟練のための基礎をなす。この教育システムは、コミュニケーション活動の手段の習得から音声言語の熟知へと進む、自覚的実践法の特徴を現すものである。この際、強調すべきは、どちらの目的も重要であり、その割合は教育の段階と専門によって左右される、ということである。

授業へのアプローチの仕方は、教育制度全体をも、その各要素——目的、内容、形式、方法、手段——をも規定する。言語学、心理学、教育学は授業方法の基礎をなすので、自覚的実践法の内容は、言語的・心理的・方法論上・教授法上の4グループのアプローチに分けて説明される。

方法論上のアプローチとは、科学性、実践性、自覚性、分かりやすさ、知識をしっかりと身につけ熟達させること、学習者の個性を考慮すること、理論と実践との関連づけ、システムとの一貫性などである。

自覚的実践法によるロシア語教育は、次のようなアプローチに基づいている。

- (1) コミュニケーション。これはもっとも重要である。ロシア語の授業は音声言語活動を把握し、この言語が話されている国について知識を高めることを目指す。学習者じしんが教程のなかで積極的に想像力を養えば、日常的なコミュニケーションの手段としてロシア語を使用できるようになり、集団的な学習方法を広範に取り入れることで、未知の表現にであった場合に類推によってこれを解決する想像力を身につけることにつながる。教程は実際のコミュニケーションを模して行われる。コミュニケーションに目標を置くこの教程では、教師は対象となる言語についての情報の担い手となり、会話教育のすべてのプログラムで組織者の役割をはたさなければならない。
- (2) 学習者の母語の特徴を考慮すべきこと。このアプローチは、教材を選択しこれを利用する際に、学習者の母語とロシア語との違いがもたらす外国語理解の難点を考慮することである。この際、学習者の母語には存在しない現象、あるいは母語とロシア語の間に一致しない表現の形式と方法に特に注意が払われなければならない。

この教授法は自覚的実践法のために極めて重要であり、学習者たちの母語に相応しい教科書と教材が選ばなければならない。母語がロシア語の学習にとってどのように理解を妨げるかが考慮され、これを克服するための練習問題が提供される。練習の主な内容は、問題となる事実の説明、二つの言語間で一致すること及び一致しない現象の対比、翻訳を含む問題の練習をすること、代表的な誤解の分析である。これらの対比と練習の量は教育の目的に応じて決められる。

- (3) 区分と総合。これは、ロシア語の実践的教育において、発音・イントネーション・文法・語彙などに課程を分けたうえで、総合的な目的（話し方、聞き取り方、読み方、書き方、の四つの熟練）を目指すことである。自覚的実践法における区分と総合のアプローチ

は、言語を実践的に駆使しながら同時に言語のシステムを理解する必要に対応する。このアプローチは、言語学を学ぶ学習者の場合にもっとも典型的に現われる。会話の形式の習得を目指す短期間の教育の場合に、このアプローチは最も有効である。

- (4) 総合教育のアプローチは、各言語活動の特徴を考慮した上で総合し、それらを相互に関連づけて教育するということである。このアプローチは、自覚的実践法においてこそ、研究され適用されなければならない。これは、言語活動の各種類の逐次的な教育（聞き取り－話し方－読み方－書き方）を内容とし、会話の勉強を優先的に考える会話教育と対立する方法である。

自覚的実践法は、次の理論を前提にする。コミュニケーションにおいては言語活動の全ての要素が相互に密接に関連しあっているため、言語活動のある能力を拡大するためには他の能力をも高めなければならない。たとえば話し方の教育は、聞き取り方の教育なしには不可能に近い。

しかし、総合教育のアプローチは、言語活動の全ての要素が同時に教育されるということの意味はしない。言語活動の各種の相互関連は、教育の段階と能力の性格によって規定される。

- (5) 言語をそれが話されている環境下で教育すること。このアプローチは、学習者たちがロシア連邦で教育を受ける場合に実現される。教育の効率を向上させる要素として、言語環境の役割は世界が等しく認めるところである⁷⁾。

自覚的実践法によるロシア語教育の諸々のアプローチのもっとも典型的な例は、語彙と文法の学習を通じて言語理解を目指す場合である。授業のなかでは、言語の総合能力を向上させるのに、印刷された文章を素材として用いることは充分考えられる。すなわち、読解力の向上は言語能力を拡大する主な要因である。しかし、また別の典型では、教育の素材として音声言語を取り上げるだろう。このアプローチは、以下の段階に分けて実践されなければならない。

- (1) 学習者を授業へ注目させる。この目的として、授業のテーマ、習得すべく教材、各段階の内容的な特徴が通知されること。
- (2) テキスト並びに図式を使った教授法、規則の説明・例文を含む解説による新しい語彙・文法の導入、並びにすでに習得した教材の整理。
- (3) 練習問題によって学習内容を身につけ、これを体系化することを目指す。語彙的・音声的・文法的能力を向上させ、本文から情報を得てそれを話し言葉や書き言葉として表現する能力を拡大すること。

7) Капитонова Т. И., Щукин А. Н. Указ.соч.,с.72-76.

- (4) テキストを読むための練習問題をすること、すなわちテキストの難点を事前に解明すること。練習問題は、読解のメカニズムを向上させ、造語の分析して類推による理解能力を拡大し、文の前後関係から未知の語を理解することを目的としている。
- (5) 文章をその全体としても・細部においても理解できるようにテキストを読むこと。
- (6) テキストを読んだ後の練習。これは、読んだテキストの概要を抽出して、それを自分の言葉で表現して人に伝えること、テキストの内容にかんする会話に参加する能力を向上させる。同時に、前の段階で得た能力を拡大すること。
- (7) 授業外の自習で、前に得た能力を新たにし、テキストの内容を述べ、受容した情報について自分の意見を表現する能力を育て上げること⁸⁾。

ロシア語教育の自覚的実践モデルは、専用の教科書の利用を前提とする。この教科書は、言語の構造、造語、文体論を自覚的に習得することを通じて、対象語を実践的に会得することを目的とする。教科書は、構造と内容によって三つのタイプ（文法的なもの、文法会話的なもの、会話的なもの）に分けられる。

文法的なタイプの教科書は、言語のシステムを紹介することと文法的な熟達に多くの注意を払うが、文法が機能的にではなく形式的に記述される。このため、教材はしばしば学習者の母国語に翻訳された広範な文法的な解説を含むため、教科書のボリュームが大きくなる。言語素材は規則の総和として伝えられ、音声言語活動の具体的な局面に合うとは限らない。このタイプの教科書を使ってロシア語を勉強する学習者たちは、ロシア語の文法を基礎からよく習得し、読んだり書いたりすることができるが、言葉をコミュニケーションの手段として使う必要のある場合に困ることがある。

文法会話的な教科書は、言語をコミュニケーションの手段として修めることを主な目的とするが、その学習のシステムは言語の構造と例文を暗記することであり、暗記によってそれらを実際の会話で使えるようにすることを目標とする。学習者が言語の構造を十分に習得するならば、コミュニケーションのどんな局面にも通じる会話力を身に付けることができるだろう。このアプローチの支持者のなかでは、このことは一般的通念となっている。かれらが勧める学習のパターンは、以下のようなものだ。すなわち、実際の言語表現を観察してその理解へ、次に言語練習によってその理解を定着させること、そして会話の実習課程で会話力を習得することである。

この場合、教材として文章が選ばれ、教育課程が文章構成法の傾向を帯びてくる。授業の主な内容がテキストに関連した文章や会話の練習にあり、文章の練習の方が多い。

8) Капитонова Т. И., Щукин А. Н. Указ.соч.,с.76-77.

会話志向の教科書は、言語を実践的に習得することを目指す。この種の教科書では、言語の形式的な構造と規則より、言葉を実践的に利用するために必要な会話力を向上させることを目的にしている。その結果、文章の練習問題と比べて会話の練習問題の方が遥かに多く、第一と第二のアプローチに典型的な広範な文法の解説がここには存在しない。この教科書では、文法的な素材が例文・会話例のモデルとなり、その局面を説明する絵を通じて学習者を導入する。このタイプの教科書は、全ての段階で言葉の意味を説明し、この言葉を会話で活性化するために実例で教授する。絵は発言の基になる⁹⁾。

このタイプの教科書の一例としては、モスクワのプーシキン記念ロシア語大学で作成された“Русский Язык Для Всех”（みんなのためのロシア語）がある。

教科書のまえがきに述べられているように、本書の主な目的は、1) 学習者が日常生活や文化を話題とした会話ができること、2) さほど難しくないテキストであれば辞書を用いて読めるようになること、3) 自学自習でもさらに上級編に進めること、等を意図したものである。

この教科書は、ロシア語学習教材シリーズの中の1冊であり、付録としてレコード、練習問題集、会話教本、読本、単語集等が収められている。このシリーズは英語版も出版されているが、日本では、付録を除き教科書本体だけが出版されている（「百万人のロシア語」ナウカ、1976）。このシリーズは20年前に作成されたので、付録のレコードはなかなか入手困難である。また、日本での出版に際し改訂されたので、テキストや練習問題とレコードの間に、若干の相違が生じ、利用しづらくなった。主な改訂箇所は、ロシア語版の21ページに相当するロシア語音声組織入門の章が削除されていることである。このロシア語音声組織入門章では、ロシア語の音声システム、特に、イントネーションと、その使い方が紹介されていた。つまり、ロシア語のリズムに大きな注意が払われていた。改訂に際しての音声組織入門章の削除は、本コースに入る前に音声の十分な練習を促す結果となった。

本書は特定の言語学者を対象としたものではない。すなわち素材の選択と配置に際は、多くの外国人に習得が難しいと思われるロシア語の典型的な特徴を取り上げることにした。この教科書は週に2-3時間で1年間勉強されるものとして考えられる。これは40本課と8総括課からなっている。

この教科書は、学生に対しロシア語の文法書を意図したのではない。教科書の文法と会話例文は、ロシア語の体系にもとづき人々の間のコミュニケーションを考慮した上で厳選されているので、本書ははっきりしたコミュニケーション志向を持っていると言える。この本の特徴としては、会話文がテキストの大多数を占め、コミュニケーション向けの性格を持ち、会話練習が多くて多面的であり、直接教授法が広範に使用され、文法的な素材が図と表と例文によって

9) Капитонова Т.И., Щукин А.Н. Указ.соч.,с.77-81.

導入されていることである。各課は二つに分けられている。前半には語彙・文法材についての例文・文章、その表現能力を定着させるための練習問題、例文がロシア語のなかでどんな機能をしているかを説明する解説が載せられている。後半にはさまざまな会話と会話練習が含まれている。授業は自覚的実践法によって行われる。これは、最初に学習者に語彙・文法教材が紹介され、その後練習を通じて会話のパターンを自動的に使えるようにすることである。次にテキストを使って練習が行われ、最終段階では、会話能力を向上させ、自由に話せる想像的な能力を発展させる練習が行われる。

教科書の内容は機能的に異なるサブシステム、すなわち、語彙、形態組織、等に分類されている。文法に関しては、特に以下に述べる言語システム論理に沿って編集されている。第一には、ロシア語の文法の基礎を教える模範例文で、単文と複文を組み合わせて、順次簡単なものから難しいものへと進めるように、配慮されている。第二には、他の外国語の文法に類似のあるものから、類似のないものへと内容が進んでいる。第三には、文法の伝統的な配列というものはないが、模範文が文法の形を混同させないような順序に配列されている。

教科書における会話体の説明は、代表的例文を用いることによって行われている。話し方の例文の中心は主語と述語で構成された単文であるが、複合的な文章、すなわち、従属複文と並立複文等も導入している。話し方の例文は文章の抽象的な構造でなく、具体的な文法の変化、たとえば形と人称と数の一つのフォームを導入している。

本教科書の目的は、話し方を習得することにある。書かれた文章の構造が、口頭の会話と比べてどのような特徴を持っているかについても、考慮されている。したがって、話し方の例文は、会話に特徴的な構造やロシア語に特有な会話作法をあらわしている。

本教科書は一般の初級学習者を対象した入門書であり、文法および語彙の項目の多くは絵や図を用いて説明されている。使用されている絵・図・表は、最初から最後の課へ進むに従って順次その内容が複雑になり、難度にあわせて編成されている。最初の課では簡単な文法が中心になっているので、全て絵で説明されている。その後、各課のテーマの絵と文章は前後の構成との関係で把握できるように表示されている、たとえば習得した表現を使って新しい表現を解釈できるように構成されている。ページをめくるごとに、段階的に絵は複雑化し図と表に置き替わってくる。翻訳のない教科書による直接教授法は、まだロシア語を十分に習得していない学生にとって唯一の方法であると考えられる。

本教科書はロシア語に習熟するため多くの練習問題を含んでいる。この練習問題には、状況に応じた表現の使い方、適切な表現と文法の選択、文法あるいは前後関係から意味を汲んでより適切に表現を創造すること、非言語的なコミュニケーションにたいする言語的対応等が考慮されている。

教科書の内容には、ロシア語の言語そのものだけでなく、ロシアの文化も広範に含まれている。子供向けのテーマから成人の学習者に至るまで興味をひくテキストとなっている。テキストは旧ソ連の社会の多面的な側面に触れている。たとえば、国家の社会政治機構、国の多民

族の構成、国民の教育、保険と社会福祉、ソビエトの文化と科学、スポーツ、伝統と習慣に及んでいる。また、ロシア語を習得するために学生たちの日常生活の表現を考慮しなければいけない。たとえば、文化の特徴、伝統、学生たちが住んでいる国と町の名前、自然と気候の特徴、職業名、職場、家族の構成、関心の的、国祭、等に対する表現を習得しなければならない。

本教科書は20年前に作成されたので政治と社会に関する内容はだいぶ古くなり、または、経営経済学部学生に必要な専門用語が殆ど盛られていないが、日常会話の勉強のためにはふさわしい教科書であると思う。

(1997年12月22日受理)